

宮崎 駿

イメージボード集

HAYAO MIYAZAKI IMAGE BOARD



講談社

もののけ姫





①戦いやぶれ  
道に迷った武士  
灯をみつけて



②大きな樹の洞  
人気はなく、  
食い物がないから



③無断で  
カニやイシをいかに



④半がもてついでに  
た



⑤山に集く大山猫



⑥おしん

仕切りのをさげはじめ  
たすけてくれ  
三人の娘のうち一人を  
嫁にやるとの約束

⑦ローシ、  
約束を忘れるな



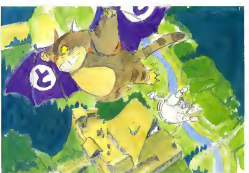
⑧クレン、  
重いやつだ……!



⑨一方、武士の館では、



⑩殿の行方が判りません  
逃げ帰った陛下に  
奥方はカンカン



⑪満月の夜に  
わがえに来るぞ  
ワッ



⑫大層威の鬼瓦にひつかかる  
ものいわぬはずの鬼瓦にまで  
なんとも情けない男だ、と  
ののしられる武士  
かんかんしかに  
武士は語る

⑩戦いに破れ、おまけに  
ものけに娘をやらせは  
なんとという所甲斐なき  
おりしも敵軍が田舎にせまり、  
奥方は一の姫、二の姫を  
連れて、まじきと里納り  
残ったのは、心やさしい三の姫のみ



⑪若いめられた武士の例に  
天井をつき破つて現れた  
大屋根の鬼成  
身体をかせは  
強い男にしてやろっ  
三の姫が止めるのもきかず  
武士は鬼瓦に宿つた悪霊の話にのる



⑫武士は生まれかわつた  
カツカツと飯をかきこみ  
先祖伝来の  
重宝きて着られなかつた  
甲冑も軽々と着込む



⑬神し寄せた敵軍を  
たった一人で迎え打ち



⑭死人の山を築く  
武士は世にも羨ましい武士  
強敵に打ち

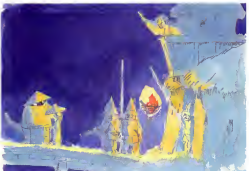


⑮おまけ、心やさしい  
三の姫がうたまいて  
武将(鬼)は  
悪霊を打ちついで  
三の姫を連れて  
田舎に  
もとの町の娘がきこえよ

⑧そこへ、約束をあり  
ものけの嫁とりの約束



⑨お前は今夜から  
ものけの嫁となれ



⑩ものけに背負われて  
三の姫は人里はなれた土地へ  
連れ去られる



⑪さあ婚禮じゃ

飲め、度え、と

浮かれるのはものけばかり  
三の姫はかたくなだ、

父を人間にもごまかす

嫁にならむけのけいませと

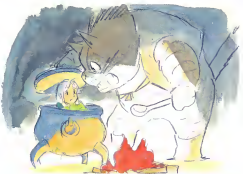
⑫ものけは泣き  
ものけは泣き



⑬酒しかかた  
酒しかかた



⑧おたけだん  
 すけだん  
 降参しなご  
 エター  
 エノコトノ御心ごさ



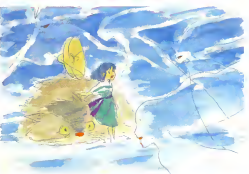
⑨どうか力をかけて下さい  
 悪霊を退散させることが出来たら  
 かならず  
 あなたの嫁になりますから……  
 しみつもなご  
 その約束忘れなな



⑩無言退散の方法を探す  
 つらい旅がはじまる  
 山また山のその奥に  
 もの知りの集が住むという



⑪総首を叩くか  
 せきご  
 ぞ

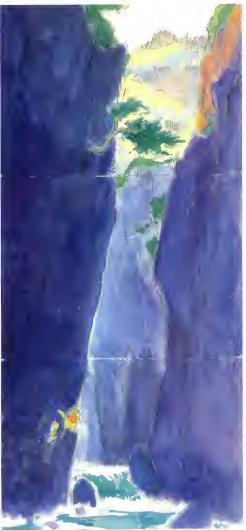


⑫三の娘はけなげで耐える



⑬なんとめんとしなご  
 母立ちななご  
 母の町へ通市集つて来た  
 め

① 深い山奥へ  
国が生まれた時からの  
森を抜け  
大滝と出会う



② 求める心があるからこそ  
悪霊は人にとりつくのだ  
少しの間悪霊の力を  
押さえる力を与えよう  
強みがあるとするならば  
お前の父に人の心が  
わずかでも残っていることだ……

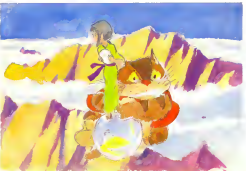


③ 湖の底に  
太古からの宝物が沈んでいる  
青銅の鏡  
長い年月にもかわらぬ  
光を失っていない



④ あとは  
お前の心の強さが  
すべてを決めるだろう……

⑨大亀の心くぼりの跡にのって  
故里へ



⑩悪霊は遠視の術で  
不吉な光が近づくのを知る



⑪故里を出てから既に一年がたつていた

三の姉は故里の有り様を茫然とみる

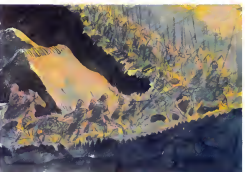
小さな山国の風景

巨大な城に変わっていた

しめや神靈の力は

あやかし強大なものだ

なつていったのだ



⑫武器の音が鳴り響き



⑬鉄を打つ炎が大地をこがし

④ 庄政に苦しむ人々の怨念の嵐が  
地に舞っている



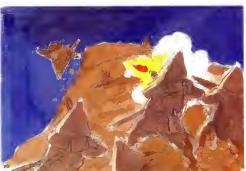
⑤ 討つ手がくり出され



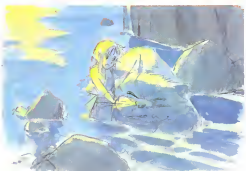
⑥ 物のけは  
姫を守つて大奮戦



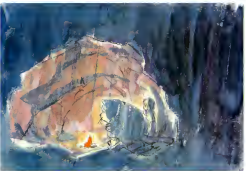
⑦ 蛇の城に  
手を出すな!



⑧ 火を映く討つ手ともの鉄!



⑨ 奮つきながら  
ものけは姫を守った



④ ひとり一人の心  
 なるこゝろのなごり  
 無言に感じられた耳鳴り  
 一歩に足が重たくな……  
 今は、耳を閉じてはもうしかない  
 心を決めて、一歩を踏み出す



⑤ 月の光の中で  
 眠っているもののけの姿が鏡に映る  
 それは  
 そのけの本当の姿だった



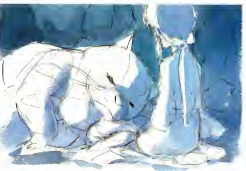
⑥ 鏡はもののけの心を映す  
 けのけの心には新緑



⑦ 心は静かに  
 静かに静かに



⑧ 静かに静かに  
 静かに静かに  
 ……静かに静かに  
 ……静かに静かに  
 ……静かに静かに  
 ……静かに静かに



⑨ 静かに静かに  
 静かに静かに  
 ……静かに静かに  
 ……静かに静かに  
 ……静かに静かに  
 ……静かに静かに

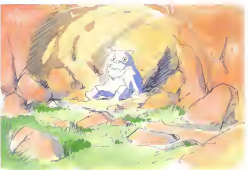
⑧三の姫は一人  
父の城へおもむく



⑨もののけの元に嫁いだ姫が  
甲斐りしたのです  
道をあげなさい  
三の姫の気配ある態度で  
旗本達も道をあげる



⑩目覚めたもののけは  
知らないのに気づく



⑪三の姫を見なかつたか  
お城へ行きました  
お一人で  
ナニツ!



⑫もののけは走る  
容姿かかすことも恐れて

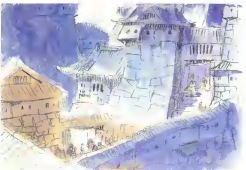


⑬おびたひんげは  
おび込んだりへくのすけ

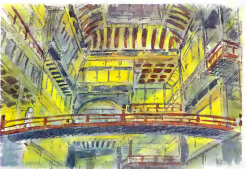
⑧城では



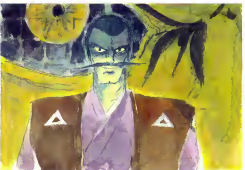
⑨庭はすすん進んでいく



⑩天守の巨大な広間  
父のいる所へ



⑪父親は出た



⑫お母や心ばかりか  
身体まで、悪寒に食いつくされた  
父の影のせいで旅じただけが  
父親に遊ばないでね  
悲しいがりのお母なかなあ

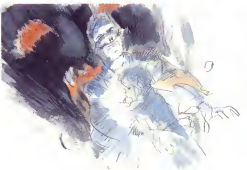


⑬殺気とおそろしい雷気を  
一度に浴びながら  
川の流石立ち向かう

⑧刀をふりかざす悪童  
姫は  
かくし持っていた鎧をかざす  
たしろへ悪童



⑨三の姫は  
父の心とこころに身を投げる  
姫はこころに砕け  
たしろへ悪童は  
武士の身体から現れ出る



⑩武士は、愛する娘を見たい  
たしろ父娘



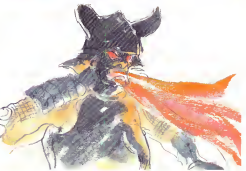
⑪迷れ出た悪童は  
かたわらの甲冑に乗り移る



⑫血をすすって成長していた悪童は  
本体になりつつあった



⑬鉄面の口からほとほと吐く  
地獄の劫火



⑧その時  
ものが飛び込んで来た



⑨炎を一身に受け止め  
火だるまになりつつ  
悪霊に襲いかかる



⑩かたわしと逃れる悪霊に  
追いつかぬもののけ



⑪かけよる姫

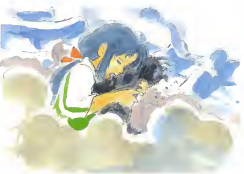


⑫一人を炎がつつむ

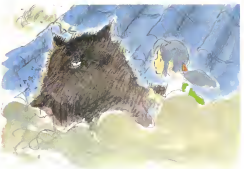


⑬ギヤーツ  
悪霊は燃えつきる  
もののけも力つきて胸れ落ちる

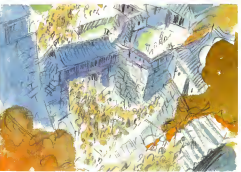
④ 山に火が燃え上る  
三三の娘  
と、その胸が熱く  
生きているー



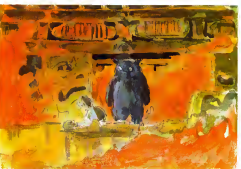
⑤ わしは山にまはるる  
手のひら  
かわいい嫁をのこして  
死んでたまるか



⑥ ツツハハハ



⑦ 庄政に苦しんでいた人々が立ち上がる  
城門は打ち砕かれ  
火の手が広がる



⑧ 武士は  
娘に奪取られながら  
人間として息をひきこる  
熊害の集いた娘は燃え活きる  
黒木は黙り  
人々は怒りあがる



⑨ ものけは娘を肩に乗せて  
山で帰っていく……















土屋の一族







おまトト (13007)

ミン (1077)

トト (6797)



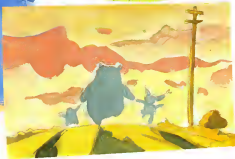
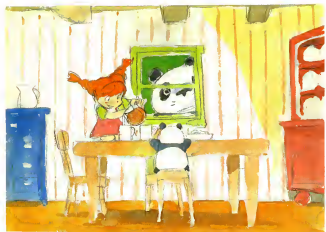
スズタリ



XI(≒A)



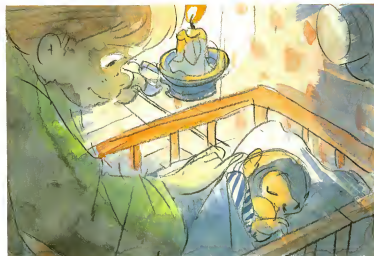
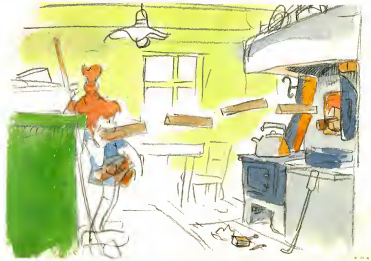




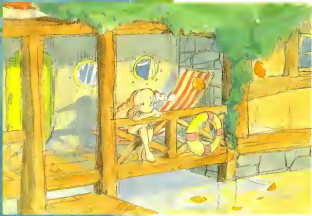
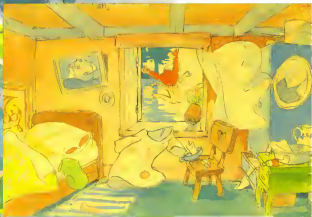
















520-111 アラカシ屋敷の船



## あとがきにかえて 宮崎駿へのインタビュー

今まで見て来た絵は、イメージボードっていうんですか？  
宮崎と、勝手に呼んでるんですけどね、でも、まったくの落書きも入ってます。イメージボードは作品の準備に使うもの、ストーリーボードは絵コンテと同じことなんですけど、これは、本書と思えばいいわけです。

こういう形で描き始められたのはいつ頃からなんですか？

宮崎、結局自身は「ボクス」で、自然にはじまりました。映画全体の雰囲気を決め、ストーリーの方向を決める材料にするものですが、なるべく多く描かなきゃならない。ザザッと鉛筆で描いて、半彩で描くんですけども、方向を定める過程の作業だったから、一枚一枚手調をかけたくなかったです。音は大きいものを描いたりしてたんですが、だんだん億劫になってきて小さくもつちやっつた。近頃でしょう笑。ドンドン近づいていっつもやっつて……。

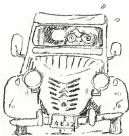
——できあがったものは、皆で見せ合うんですか？

宮崎、ええ、もともとその場に描くものだから、ワーラッにはりめぐらして、なんとなく気分が出て来たとかなんだとか……。準備に参知している人間も、してない人間も勝手に描りて来たのをふとんの中でこっそり読んで、えらく感動したおぼえがありました。兄弟がとれちゃってポロポロで、何ページなくなってるのかわからない、そのない部分が目立つ気がなったりして……。

——手塚さんのものを読まれましたか？

宮崎、いわゆるマンガ少年じゃなかったんですが、手塚治虫の悪行本は読んでたえががありましたね、でもお金を出して買った記憶がなくて、「メトロポリス」といったかな。兄弟が借りて来たのをふとんの中でこっそり読んで、えらく感動したおぼえがありました。兄弟がとれちゃってポロポロで、何ページなくなってるのかわからない、そのない部分が目立つ気がなったりして……。

手塚さんの初期の作品は、「アトム大使」にしても、「ロックンロール日記」なんかも、一種の華劇的なものもあって、子供の自分には非常に重かった、でも一番印象に残ってますね。やばり一番影響を受けたのは、手塚さんによる視点と、世界にはお前が知らない事がある、手塚さんの作品には、なにか文明論のような視点と、世界にはお前が知らない事がある、はいあるんだよ、という風な呼びかけが感じましたね、「イダグチ」とか、「赤肉餅」とか、なんか土着のものをひきずっていいでしょう。あんまり好きに描かさせてたね、ジャングル大帝にペリシチ人という文字が出て、その文字だけで目がくらむような、なんて世界には知らない事が多いんだろって、それをとちやっつて字べば良いのか見当も



1967年に1954年製のもの



1971年に1966年製にのつた

つかないから、「一種絶望感みたいなものを感じたことがありますね。」

——お話を伺うことはやっぱりどうして空想にふけるってのは、子供の時はだれでもやるんじゃないですか。恥ずかしくてどうも他人にはしゃべれない「物語を、どんな子供でも10歳ぐらいから始めるんじゃないかと思うんだけど……」

自分の子供達とか甥や姪が小さかった頃、ひとまとめでいって連れて歩くのが好きだったんですけど、夜寝る時にお話をさせてやるんです。そうすると、非常に喜ぶ話があるんですけど、大人とかう感じ方をしてくれる。阿呆も同じ失敗を繰り返すところとかね。単純な話なんだけど大人が想像もつかない位ワタワタして聞いてくれる。ところが、ある時期になると、スツとそういうものに興味がなくなっちゃう。そうやって10歳から12歳ぐらいの間までに自分の世界を持って、今度自分が自分でつくった物語ももちろん、本やテレビやで見たものを土台にするわけですが、その主人公になっていくわけですね。そこから返らぬ、もう絵本の世界じゃなくなってくる。かくて我が息子どもは大きくなっていく、それはそれで自己形成しようともがいていく過程として、なんか連帯を感じる時なんだけど、おもしろがってはいられないんで、おもしろくない、幼児が一匹はいるなあなんて空想。

——最近のものはどうですか？

宮崎 あんまり精力的には見てないので、結論としてはいいいんですけど、鴨川つばね、棚田さみお、高橋留美子、少女マンガはほとんど見ないのですね。でも、好きだからといって買って読もうって方ではないんです。高橋留美子は「秋の恋ひ」とつて、ぼくにも十分読んで、それ以上見なくて感心してます。高橋留美子は、あの発想の仕方がおもしろい。彼女と同世代の女性アニメーターを知っているんですけど、日常の発想がとてよく似ているのとおもしろい。ひどくロマンチックなものを懐ける一方で、やたらと現実感覚も鋭くて、それが等価というか、「うる星やつら」で、それまで大騒ぎしていたのに最後のコマで突然全員でカレーを食べて。生きるの死ぬのの死の死の、カレーが甘口か辛口かが同じ本気で論じられる。ああいう感覚は僕にはないので愉快ですね。女性が油断なく生きてるってかんじがしておもしろい。

他人をうらやましいと思わない人間なんですけど、諸星大二郎はうらやましいと思いません。とにかく、賞芝しててもこういう風に出るというのが、驚きというか……それも才能なんじゃないですか……

だって、あの人の作品は本当にあの人のものですね。あの絵、上手く描くうという意志が全然なくて空想、それでも描きたいものはつきり持つて、それを的確に表現している。

る。もうけたいとか、メジャーになりたいとか、そんな発想がないですね。連念としての漫画家たちがう方向の世代が出て来たという衝撃、自分はこういうのを見たかったんだという快感和方向がありました。

大友政洋を最初に見た時、あ、違う方向から絵を描く人が出て来たと思ったんだけど、衝撃の度合いが違った。諸星大二郎は好きですね。大好きとっていいな。

——諸星さんでは、どんなものを読まれましたか？

宮崎 中国を素材にしたものが一番すやれているみたいですね。でも「尖閣」という作品も良かった。何か国を同一つづける姿勢が好きですね。

アニメーションでは、よくあるんですけど、「感動させる為」に登場人物を殺すんですね。

ポアンダヤののも光線銃で撃つのも同じ美意識で平気なやつらだった。感動させる為に殺して、又生き返らせたり。退屈ですね。

物語をつくる人間は、登場人物に対して神様であるわけですよ。生殺予奪の権利を握っているんですよ。殺人を平気だ描いてかっこよくなって、自分は全然怖くもかゆくもなくしてわけてですね。凄惨の中の登場人物の生について真剣じゃない態度は、いやですね。もっとも悪劣です。

アニメーションやってみてね、自分で自己規制している部分があるわけですね。自分の内面のもっと暗がりの部分を前面に出したら子供のためのアニメーションじゃなくなっちゃう。光の部分で仕事をこなしつつ、暗の方がたまたまやうんでね。諸星大二郎のは全周囲に描いてるかんじがして、うらやましいですね。

その辺はもう、個人の資質であって、しようがないという気もしませんけど、宮崎 ええ、まあそういう風に言ってみてみただけなのかもしれないんですけど、金を払って買ったことがないという意味では、ぼくは良い読者とは言い難いんですよ。日本の漫画がこれだけ量的に拡大して、それなり事はあったんだという救いというか、こういう人がおまんま食っていきける、いけるのかな？

——食っていますよ。

宮崎 いけるっての、いいね。

——たとえ、家が欲しいとか、そういうこととさと思わなければ。

宮崎 そういふのはどうもダメですが、アニメーターだったって空想。

——現在、漫画描いてますか？

宮崎 全然、仕事やっても気がしない空想。自分は何をやってるんだらう、という思いの方が本当のこと言ってる強いです。アニメーションと漫画は両立しないというのが特筆して、両方やろうという若い人がいたら、アニメーションはそんなくないって、ぼくは



年の夢ですわね。

運がよければ出来るだろうし、悪けりゃ出来ない……まあそれ程運頼しているわけじゃなくて、まだ物語が出来ないんです。においだけしてて。本当はこうやって読まない方がいいんですわね(笑)。あつためておいた方がいい。

アニメーションは風俗営業ですから、作家であるなんてのは幻想にすぎません。入れもの(企画)が決まってから、盛るものをひねり出すわけで、やっぱり自分はアニメーターだと思ってるから、風俗営業をつづけるつもりです。



少年マガジン特別別冊

宮崎駿 イメージボード集

定価 一三〇〇円

発行 昭和五十八年十一月二十日第三刷発行

著者 宮崎 駿

編集人 三樹 創作

発行人 東浦 彰

発行所 株式会社講談社

〒一一二 東京都文京区音羽二―十二―二十一

電話〇三―九四五―一一一(大代表) 振替 東京八一三九三〇

印刷所 凸版印刷株式会社

製本所 株式会社同宝社

構成 繪師社

装丁 平野甲賀

ISBN 4-06-108068-7(O) (〒)

©宮崎駿 1983 Printed in Japan

※・無断転載 乱丁・差丁本は小社営業部宛てにお送り下さい。

※資料小社書店にてお取り替えいたします。



宮崎 駿

イメージボード集

HAYAO MIYAZAKI IMAGE BOARD



講談社